

年内にも検討委結論

見直し案で委員長意向



説明した。

【東京支社】日本学術会

議が設置した国際リニアコライダー(ILC)計画の見直し案に関する検討委員会(委員長・家泰弘日本学術振興会理事)は1日、都内で第6回会合を開き、ヒッグス粒子研究の意義や国際協力体制について議論した。終了後、家委員長は検討委の結論について「個人的な希望としては年内にはまとめたい」と述べた。

委員6人が出席。東京大学大学院の浅井祥仁教授、高エネルギー加速器研究機構(KEKK、茨城県つくば市)の山内正則機構長が参考人としてILC計画について

浅井氏は「国内外の高エネルギー物理学者からは計画への合意が得られ、速やかな推進が期待されている」と説明。「日本ができないとなれば、欧州合同原子核研究所(CERN、スイス)など他施設でヒッグス粒子の精密測定などを実施する方向になる」との見通しを示した。

委員からは中国の研究者の対応や経済効果などに関する質問が出た。山内氏は「日本が誘致を決断すれば、中国の研究者は協力する意欲がある」と説明。経済効果については「大学などと一緒に誘致すれば、大都市が周辺に形成されることはあり得るが、ILC単独では限定的だ」と述べた。

委員には、加速器関連産業への参入に向けた本県企業の取り組みなどを紹介する県ILC推進協議会(会長・谷村邦久県商工会議所連合会長)の資料が配布された。

終了後、家委員長は「委員の意見がそろっていけば徐々にまともに入っていく。今後の議論次第だが、個人的な希望としては年内にはまとめたいと思っている」と語った。

次回会合は10日の予定。

達増知事16日から

スイスと仏を訪問

達増知事は16、22日、スイスとフランスを訪問し、国際リニアコライダー(ILC)誘致実現に向けた意見交換や本県の観光PRを行う。

スイスではジュネーブの欧州合同原子核研究所(CERN、セルン)を訪れ、ILC計画を推進する国際研究者組織リニアコライダー・コラボレーション最高責任者のリン・エバンス氏らと面会。本県の準備状況を伝え、実現に向けた一層の協調を確認する。

フランスはパリで開催中の日本博「ジャポニスム」に出席。震災復興支援への感謝を伝え、本県の物産や観光の魅力を発信する。

達増知事は1日の定例記者会見で「国内関係者が一体となりILC誘致に取り組んでいることを伝える。パリでは『日本の中に岩手あり』を示したい」と抱負を述べた。

達増知事は16、22日、スイスとフランスを訪問し、国際リニアコライダー(ILC)誘致実現に向けた意見交換や本県の観光PRを行う。

スイスではジュネーブの欧州合同原子核研究所(CERN、セルン)を訪れ、ILC計画を推進する国際研究者組織リニアコライダー・コラボレーション最高責任者のリン・エバンス氏らと面会。本県の準備状況を伝え、実現に向けた一層の協調を確認する。

フランスはパリで開催中の日本博「ジャポニスム」に出席。震災復興支援への感謝を伝え、本県の物産や観光の魅力を発信する。

達増知事は1日の定例記者会見で「国内関係者が一体となりILC誘致に取り組んでいることを伝える。パリでは『日本の中に岩手あり』を示したい」と抱負を述べた。

達増知事は16、22日、スイスとフランスを訪問し、国際リニアコライダー(ILC)誘致実現に向けた意見交換や本県の観光PRを行う。

スイスではジュネーブの欧州合同原子核研究所(CERN、セルン)を訪れ、ILC計画を推進する国際研究者組織リニアコライダー・コラボレーション最高責任者のリン・エバンス氏らと面会。本県の準備状況を伝え、実現に向けた一層の協調を確認する。

フランスはパリで開催中の日本博「ジャポニスム」に出席。震災復興支援への感謝を伝え、本県の物産や観光の魅力を発信する。

達増知事は1日の定例記者会見で「国内関係者が一体となりILC誘致に取り組んでいることを伝える。パリでは『日本の中に岩手あり』を示したい」と抱負を述べた。

達増知事は16、22日、スイスとフランスを訪問し、国際リニアコライダー(ILC)誘致実現に向けた意見交換や本県の観光PRを行う。